

幼児期における多様な動きの経験や運動量の確保を目指した遊びの工夫を行った実践例

実施園名 平野児童センター（山形県）

全校幼児数 34名（男児19名 女児15名）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0238（88）5767

メールアドレス shidoushujinagai-ed.jp

1 研究のねらい

○幼児期における多様な動きの経験や運動量の確保を目指した運動遊びの工夫・継続的实施により、幼児の多様な身体能力の向上を図るとともに、運動への関心を高め、楽しさの体感を目指す。

○運動習慣の形成、好ましい生活習慣の形成を図り、ライフスタイルの改善と体力向上を図る。

2 研究の概要

幼児期の体力・運動能力の変容や向上に関する知識不足、運動遊びの内容面でのバランスの欠如、運動遊びの工夫改善の必要性が指摘されてきた。また、運動への関心を高める、望ましい生活習慣を形成するための取り組みを、幼児期から開始する必要性も感じていた。委員会では、運動量の確保のための手立て、多様な動きを経験するための運動プログラムの検討、実践指導講習会の開催、体力測定の実施方法、望ましい生活習慣の形成を図るためのしかけづくり等について検討してきた。運動器具や遊具を設置し、遊びの中での多様な動きの経験、運動量の確保を目指し環境整備に努めた。体力測定の結果をもとにして運動プログラムを検討し、継続的に実施してきた。また、専門の先生を招聘しての各種講習会も実施してきた。こうした実践の検証については、体力測定、映像による動きの変化の把握、保護者や職員の声、調査等により行ってきた。

○実践プログラムの紹介

□ 多様な動きを経験できる遊びの工夫例（平野児童センター）

1 道具を活用しての運動遊び

①ボールや身近な道具の活用



傾斜を利用したの
ターゲットゲーム



紙を活用しての
オセロゲーム

②敏捷性、バランス性を高める動き



ラダーを使っての
ステップ動作



種類の異なる道具を組み
合わせてのバランス歩行

2 ダンスリズム運動遊び（体全体を使っての動き）



多様な動きの連続で、運動量
豊富な「あまちゃんダンス」



音楽に合わせてのダンス

*既存の道具と新しい道具を組み合わせ、さまざまな場を設定することで多様な動きが経験でき、動作の獲得が図られた。

*職員や子ども達のアイデアを生かした場の設定、動きの工夫をすることで、子どもの意欲や職員の資質向上につながった。

*音楽に合わせてのダンスは楽しくできるとともに、動きや運動量も豊富なため、大変有効であった。

○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 幼児用の安全が確保された遊具、運動器具を設置し、事故の未然防止、環境整備に努めてきた。
- 2 各セクションに必ず職員を配置し、指導・観察のもとで運動遊びを実施してきた。また、安全に実施できるよう約束の確認・徹底を図ってきた。学生等の協力者へも配慮をお願いしてきた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 これまで以上に運動が好きになり、長時間楽しみながら、夢中に運動する園児が増加した。遊具の準備等を率先して行う、自分たちで運動遊びを考案するなど意欲的な姿も見られた。多様な動きを経験することがこうした行動を促進したと考える。職員による手立ての工夫も効果大であった。
- 2 運動習慣の形成を目指し継続的に運動遊びを実施することで、昼食や午睡、睡眠へのプラスの効果も見られた。今後は、保護者への啓蒙活動等を行い、意識向上に努めていく必要がある。

○研究内容

【ダンスリズム運動遊び講習会】

体全体を使つてのダンス遊びやラジオ体操の実践



【道具を活用したさまざまな運動遊び】

設置した運動器具を活用しての日常の運動遊び



【基本的な動作習得のための工夫】

傾斜を利用した投動作とラダーを活用した走動作



【多様な動きを経験させる場の設定】

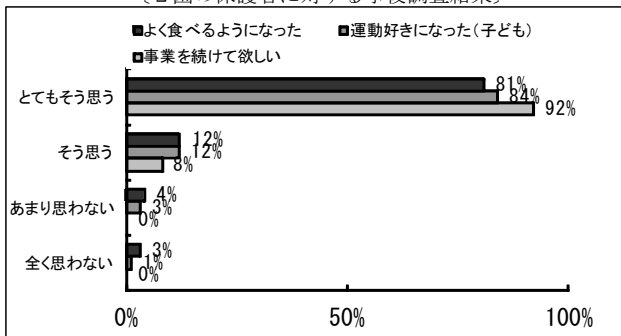
職員や園児のアイデアによる場や動きの工夫



【保護者の意識の変化】

事後のアンケートや感想からの保護者の意識の分析

〔2園の保護者に対する事後調査結果〕



〔保護者からの感想〕

- 運動の苦手だった子供が運動大好きになり、頑張って取り組もうとするようになった。
- 児童センターに行くのを、以前にも増して楽しみにしているのが子供の姿から分かる。
- 帰宅後は「お腹すいた！」と言って、ごはんをよく食べるようになった。生活リズムも改善され、起床や就寝時刻が早くなった。

事後調査結果や保護者からの感想からも、大きな成果を上げることができたと考える。

【継続実施と職員による工夫・開発】

運動プログラムの継続実施と職員による工夫・開発

- 本事業により実施してきた実践プログラムを継続実施し、経年的な変化を見ていく。
- 職員による主体的なかかわりを大切にして運動遊びを継続実施し、運動へのさらなる関心を高め、楽しさの体感を目指す。
- 来年度の新規事業にも継続参加し、事業における市の保育施設の中核的な役割を担って実践を進めていく。